

総合的な学習の時間 第4学年 学習指導案

日野市立日野第七小学校

4年3組 30名

指導者 山浦 真義

研究主題

「地域への思いを大切にする児童の育成」
～探究する児童を育てる授業デザインの工夫～

1. 単元名 「みんなの幸せプロジェクト」

2. 単元の目標

地域の多様な方たちと関わる活動を通して、みんなの思いや願いを理解するとともに、自分たちも含めた地域の「みんなの幸せ」のためにできることを相手や目的と関連付けて具体的に考え、行動できるようにする。

3. 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域には、多様な人々が暮らしており、自分たちと同じように思いや願いをもっていることに気付いている。 ②地域の多様な人々の思いや願いを理解するために、目的に応じて適切な方法で情報を収集している。 ③「みんなの幸せ」に対する自分の考えの広がりや、みんなの幸せのためにできることについて、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①体験したことや調べたことの中から、課題を発見し、課題解決に向けて見通しをもって計画を立てている。 ②「みんなの幸せ」について考えを広げるために、多様な方法で情報を収集し蓄積している。 ③複数の体験を比較したり関連付けたりして、自分も含めた地域の多様な方たちの思いや願いを実現するために、自分にできる具体的な活動を決定している。 ④「みんなの幸せ」について考えたことを、伝える相手や目的に合わせて、表現方法を選択し、工夫してまとめている。	①地域の「みんなの幸せ」のために、自分にできることを見付け行動しようとしている。 ②自分とは異なる意見のよさを生かしながら、協働的に課題を解決しようとしている。 ③自分自身の変容やよさや、自分と他者との関わりについて見つめ直そうとしている。

4. 児童の実態と教師の願い

(1) 児童の実態

児童は、第3学年の総合的な学習の時間において、「自然」をテーマに学習することを通して、地域の身近な自然環境の多様性や素晴らしさ、地域の自然を守る人々の努力や工夫に気づき、自分たちにできることは何か考え、実行してきた。4年生になり、活動範囲も広がり、地域の様々な施設や人々に出会う機会も増えてきた。人と関わることが好きな児童が多く、身近にいる多様な方たちの笑顔のためにできることは何か考える活動を設定したいと考えた。そこで、本単元では「みんなの幸せとは何か？」という問いについて、単元全体を通して問い続けることで、体験したことや知識と結び付けて実感的に探究的に、自分なりの答えを導いていくことができるようにする。

(2) 教師の願い

児童には、自分の幸せだけでなく他者の幸せも考える人になってほしい。また、身近な人との関わりを見つめ直し、よりよい関係を築いていこうとしてほしい。そのためには、地域の多様な方たちと触れ合うことで、他者視点を獲得し、自分とは異なる考え方を尊重し、共感する力が必要である。そこで、自分自身も含め、地域の多様な方たちを対象とした「みんなの幸せプロジェクト」をテーマとして設定した。このテーマを実行することで、自分の行動が、他者に与える影響を実感することで、よりよい地域や社会を創っていく一員としての自覚をもたせたい。

5. 探究する学びをつくる10の観点

- ① BASE (0時間)
- ② CHOICE (選択)
- ③ STORY (文脈)
- ④ PLUS+MINUS - (わくわく・もやもや)
- ⑤ COLLABORATION (連携)
- ⑥ VISUAL (見える)
- ⑦ THINKING TOOL (思考ツール)
- ⑧ TALK TRAINING (トークトレーニング)
- ⑨ REFLECTION (振り返り)
- ⑩ AUTHENTIC (本物)

6. 指導と評価の計画

小単元名 (時数)	ねらい(★)・学習活動・10の観点	知	思	態	評価方法
【知る】 みんなって？みんなの幸せって？ (40)	★「みんなの幸せ」について問いをもち、現時点における自分の考えをもつ。 ・日野市社会福祉協議会の方の話を聞き、問いをもつ。 ①③ ・地域の多様な方たちとの交流を通して、地域には多様な方たちが暮らしていることや自分たちと同じように思いや願いをもっていることに気付く。(交流相手は研究リーフレット参照) ④⑤⑩ ・交流を通して、更に知りたいことや思ったことについて、適切な方法を選択して情報を収集している。 ⑦ ・体験を通して発見したことを整理し、現時点における「みんなの幸せ」について自分の考えをまとめる。 ⑥⑦⑨	①	②		作文シート 行動観察 情報収集シート

【考える】 みんなの幸せのためにできることは？ (20)	★「みんなの幸せ」のために自分にできることを考え、決定する。 「みんなの幸せプロジェクト」に向けて、相手や目的と関連付けて、見通しをもち、計画を立てる。 ・今までの活動を振り返り、自分も地域の多様な方たちも幸せになれるようなプロジェクトをしたいという思いをもつ。 ・「みんなの幸せプロジェクト」の対象者を選ぶ。②⑩ ・プロジェクトに必要な情報を集める。 ・プロジェクトを計画し、日野市社会福祉協議会の方にアドバイスをもらい修正する。(プロジェクトの例：車椅子の方と楽しく遊ぼう) 本時④⑥⑦⑩ ・相手や目的を意識できているか問い続けながら、仲間と協力してプロジェクトの準備をする。⑨⑩	②	③	②	作文シート 情報収集シート 計画書 行動観察 振り返りシート
【行動する】 みんなの幸せプロジェクト 実行 (15)	★「みんなの幸せプロジェクト」を実行する。 初めの問いに戻り、「みんなの幸せ」について考えたことをまとめ、伝える。 ・「みんなの幸せプロジェクト」を実行する。⑩ ・プロジェクトを振り返り、「みんなの幸せ」について考えたことを、誰に伝えたいのか決定する。⑨ ・相手や目的を意識して、表現方法を決定し、工夫してまとめる。② ・「みんなの幸せ」について考えたことを自分が決めた方に伝える。(例：下級生、同学年、保護者、地域の方たち) ・自分の変容や探究的な学びのよさについて振り返る。⑨	③	④	③	成果物 振り返りシート

7. 関連する教科等

国語	「聞き取りメモのくふう」「クラスみんなで決めるには」「調べて話そう、生活調査隊」
社会	「住みよいくらしをつくる」「自然災害から人々を守る」
道徳	「何かお手伝いできることはありますか？」(親切、思いやり) 「合い言葉は『話せばわかる!』」(相互理解・寛容) 「となりのせき」(公正、公平、社会正義)

8. 本時の学習活動

(1) 本時の目標

ゲストティーチャーの話を通して、「みんなの幸せプロジェクト」をよりよく実現したいという思いを高め、目的や相手を意識して、自分たちの計画を修正することができる。

(2) 本時の展開 (50時間目/70時間)

	主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	1. 自分たちの「みんなの幸せプロジェクト」の計画の内容について確認する。 ・何のために？ ・誰に対して？ ・いつ？ ・何をする？ ・うまくいきそうかな？	◇⑦THINKING TOOL (思考ツール) 計画表を基に、グループで確認する。
	ゲストティーチャーの話を聞いて、プロジェクトの計画をよりよくしよう	
展開	2. 日野市社会福祉協議会の方のビデオメッセージを見る。 ＜メッセージの内容＞ ・とても楽しみにしていること。 ・プロジェクトの実行で大切なこと。 (プロジェクトをするときに大切にしていること、難しく感じていることなど。) →自分たちの視点だけでなく、相手の視点からプロジェクトを考える。 3. 「みんなの幸せプロジェクト」の実現に向けて計画をよりよくする。 ・「ボッチャを楽しめるように、ルールをもっと簡単にしよう。」 ・「自分たちの考えたものが伝わるように、説明を分かりやすくしよう。」 4. 計画をどのようによりよくしたのか共有する。 ・「遊びの説明を、伝わりやすくするためにイラストを入れることにした。」 ・「ルールが複雑だったから、簡単にできるように変更した。」 ・「自分たちの考えた街づくりが、お年寄りにとっていいものになっているかもう一度確認した。」	◇④PLUS+MINUS-(わくわく・もやもや) ゲストティーチャーとの打ち合わせをし、児童が、プロジェクトへの期待をもてるようにする。また、計画が実行可能かどうか振り返る視点を得られるようにする。 ◇⑥VISUAL (見える) ◇⑩AUTHENTIC (本物) ゲストティーチャーの話を整理して板書することで、児童が計画を見直すときの視点を明確にもてるようにする。 ◇児童の話合いの状況を確認しながら、アドバイスをする。 ◇オクリンク+ (プラス) で作ったプロジェクトシートを共有する。 ☆複数の体験を比較したり関連付けたりして、自分も含めた地域の多様な方たちの思いや願いを実現するために、自分にできる具体的な活動を決定している。(思③・計画書・行動観察・振り返りシート) ☆自分とは異なる意見のよさを生かしながら、協働的に課題を解決しようとしている。(態②・行動観察・振り返りシート)
終末	5. 本時の振り返りを基に、次の時間の見通しをもつ。	◇今日のめあてが達成できたかを振り返ることで、次の時間の見通しをもてるようにする。